

# 建 造 物

---

名 称 「かん かい どう観 海 堂」

所在地 谷地小屋字榊形

昭和41年4月19日 県史跡指定

概 要 学制頒布前に設立された共立小学校。

明治5年(1872)2月に、宮城県に対し宇多亘理郡長助役日黒重真は「宇多郡郷学校設立願書」を提出して認められ、仙台藩校養賢堂教授であった氏家晋を招き、小学校を設立した。

当初谷地小屋字新地39番地の水戸荘吉宅を假校舎として、氏家晋の長男昭磨が代理として来村し教授に当たった。昭磨は当時17歳であった。同年4月に谷地小屋字中島の民家を正式に共立小学校校舎とし、5月に氏家晋が来村して開校式を行った。

駒ヶ嶺においても、明治5年6月5日に金龍院を校舎として亘理の桑島玄隆を教師に招き小学校を創設している。

「観海堂」は、亘理伊達氏の家臣、黒沢清之進の居宅であり、明治初年北海道に移住し、空家になったものを利用した。平成8年に解体復元を行い、その際梁下より、明和6年(1769)の墨書が発見され、これが当初の建立であると推察されている。

名 称 「くるめがすりの家」

所在地 福田字中里

概 要 世界的建築家フランク・ロイド・ライトの弟子である遠藤新が設計した民家である。

遠藤新が、知人の小塩完次(禁酒運動、国際平和協会の活動家)の依頼を受け、「洗えば洗うほど良くなるくるめがすりのような家を作ろう」といって設計し、昭和6年(1931)に東京都武蔵野市西久保1丁目に建築した。

小塩氏はこの家で禁酒運動を続けていたが、平成4年6月に94歳で逝去した。遺族をはじめ建築界から保存運動が起こり、町の文化遺産として新地町において保存事業を行うことになり、遠藤新の母校である福田小学校の傍らに復元建築を行った。